

## 備後八幡駅

### (駅の構造)

備後落合方面に向かって、左側に単式1面1線のホームを持つ地上駅。以前は、対向式2面2線の列車の交換可能駅だったが、駅舎反対側のホームが廃止され棒線化された。そのため、現在は上下線の全列車が同じホームから発着する。

廃止されたホームの方には、錆びた線路が本線から分断された状態が残っている。また、以前は駅事務室が存在していたが、撤去されて待合室部分のみとなっている。

簡易委託駅で、近くの菅簡易郵便局で200円区間の乗車券のみを販売している。(200円区間は、東城駅と小奴可駅である。)

駅の少し先には、トロッコの鉄橋の残骸が残っており、昔、帝国製鉄株式会社の原料の調達のために使用された。また、農協の米貯蔵庫も残っており、昔は貨物側線も存在していた。駅構内の線路は、その跡も見る事ができる。

### (歴史)

昭和10年(1935年)12月20日国有鉄道三神線の東城一小奴可間延伸により開設される。

昭和12年(1937年)7月1日三神線が芸備線の一部となり、当駅もその所属となる。

昭和58年(1983年)10月31日無人駅となる。

昭和62年(1987年)4月1日国鉄分割民営化により、西日本旅客鉄道の駅となる。

